平成２７年度
行政視察報告書

平成 27 年 10 月 21～23 日

視察先①新宿日本語学校
②茨城県龍ヶ崎市
③奈良県大和高田市

総務文教委員会

鍛治恵巳子・森川佳英・石橋孝義・藤田　厚
土井正人・田中利徳・藤間義明

平成 27 年　総務文教委員会行政視察報告

委員　鍛治恵巳子

視察場所

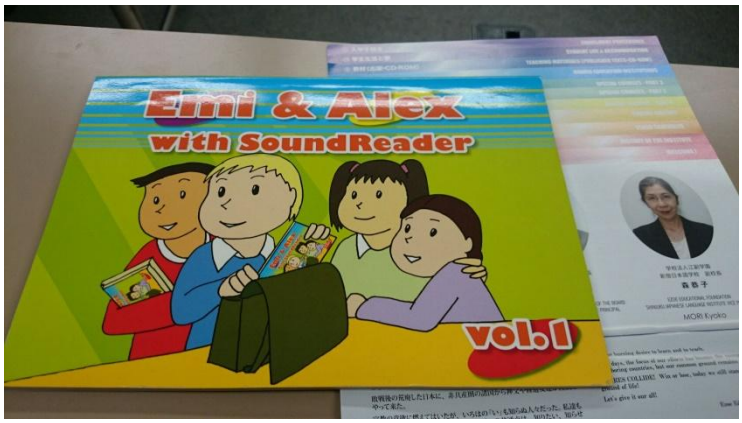
☆新宿日本語学校

☆竜ケ崎市役所（**公共施設再編成**の取り組みについて）

☆大和高田市役所（**土曜塾**の取り組みについて）

☆新宿日本語学校

今年設立 40 周年を迎えた、外国の方に日本語を教える学校。
校長先生のユーモア、情熱あふれるお話に引き込まれた。



←教材の一つだが、外国の人にわかりやすい、ということは日本人にもとてもわかりやすく。これは幼児・児童教育にも活かせるものと感じた。

*留学生を島根に、隠岐の島との交流もすでにあるようだが、今後もこの新宿日本語学校と交流をするなかで、是非島根にも留学生を取り入れる仕組みをつくれるよう、また江副校長先生の独自の教育方法を江津に取り入れられたら・・・など。是非江副先生のは江津にお越しいただき、エンジョイスタディーを学校の先生方に講演していただきたい。
一つ学べば芋ずる方式で、まるで脳内回路のように勉強がつながるような勉強方法でした。

。

色で名詞と動詞を教える。
視覚に訴えるやり方。（わかりやすい）

☆竜ケ崎市役所

公共施設再編成の取り組みについて伺いました。

・公共施設の更新のシナリオ

１．対応を決断できない（優柔不断）

２．無理な借金で対応（無計画）

３．**公共施設をマネジメント**する。→**公共施設の全体最適化と財政運営を両立する**。

＊予想される少子高齢化

＊公共施設の総量の中で小中学校などの学校教育系施設が全体の６割を占めている。

ここまでの大きな取り組み

★ファシリティーマネジメントの推進

・公共施設の維持保全に関するベテラン職員の知識・経験を共有化する取り組みをはじめ、仕様書及び単価の共通化による業務品質の向上と経費削減、予防保全の観点から計画的な改修による施設の長寿命化をはかり、ライフサイクルコストの低減を目標に取り組む。

↓

成果！！

平成１４年～２３年までの１０年間で約８億円以上の維持管理費（委託料）削減

これは、業務委託費の３０％

POINT①仕様書の見直し（点検業務等の必要性の検討、業務回数等）

②市統一単価の設定

③発注形態の見直し（清掃・整備点検等、同一業務の一括契約）

成果を聞いただけで凄い。しかも

基本方針は

行動計画は職員のマンパワー！

心に残った言葉は

子供のキャッシュカードで買い物しちゃだめでしょ・・・

本当にその通り、無計画な借金ではなく着実に仕分けし、マネジメントしていく。それも職員のマンパワーで。

勿論、市民にたいする周知も市民アンケートをとったり、公共施設の再編成のワークショップをおこなったりと抜かりはなかった。

←この全８１ページの基本計画はすべて職員、資産管理課の方がつくったもの。

*業務委託するとお金がかかるから職員でやろうというマンパワー！！

ここまでやるのかと驚いたのが、なんとこれもそれ用のソフトを使ってのものらしいが、素人なのにここまで・・・市民への周知、誰にでもわかるように漫画をつかって広報活動をしておられた。

＊人に頼む前にもしかしたらできるかも。。。と思えば、本市でも委託料を削減することは可能だと強く感じた。

公共施設の再編成は先送りにはしておけない。本市ではマネジメントワーキンググループ２８年度設置の予定だが、委員会の時に、議員が言われたように、白書を作りながらもやっていく、出来ることからやっていくことが必要だと感じた。

★大和高田市　土曜塾の取り組みについて

（大和高田市役所）

成果

平成２３年　　４６回（1,531 人）　　経費 44 万

平成２４年　　４３回（840 人）　　経費３１．８万

平成２５年　　４３回（840 人）　　経費３１．７万

平成２６年　　５３回（１，１４６人）経費３１．８万

低予算でボランティアの方の熱意における成果といえる

地域の異年齢のふれあいの場となっている。

平成２３年度からの学校地域連携事業。国・県・市の３分の１づつの予算配分。

＊安全対策については

　　都度￥２０の保険に入ってもらう

＊教育体制

　　県が行う研修にボランティアの人にも参加してもらう。

　　コーディネーター会議を開き、ボランティアの声を聞きみんなでモチベーションを高めている。

＊クラス内容

　宿題をやる。クリスマス会。漢字検定勉強。オセロ、バス旅行。

　　ダンスなど。

＊　開催場所は　主に公民館。外、野外、駐車場など

　　地域特産物の勉強に使われてる→

　　資料。

大和高田市の土曜塾の様子。

みんな笑顔で楽しそうに見えた。

本市では各学校ごとにサタデースクールが始まった。

ここは年齢５歳から１８歳まででやっている。

３つの中学校、８つの学校の人たち。地域をこえた取り組みだった。

本市のサタデースクールは学校区での取り組みだが、自分で歩いて行ける、親が安心して送り出せる地域の場所として江津市らしい成功を応援したいと思います。

予算の面や、安全面など、低予算でボランティアさんが動いてくれているのは魅力だが、なにかあった時の危機管理まで省略され

てはいけないかと感じました。

これだけ人を集められるのは凄い。

本市はスポーツも盛んで、土曜日が忙しい小学生も多くいます。人数ではなく、内容を濃くし、子供たちが家で体験できないことができたり、小学校でできないことが出来たりする、また、ボランティアの人も子供たちと関わることで元気になったり、自分の子育ての時に出来なかったことが出来たりするような、居場所になればと本市のサタデースクールに期待するところです。

平成２７年１１月１４日

江津市議会議長　　藤田　厚　様

江津市議会議員：　森川　よしひで

総務文教委員会行政視察報告書

テーマ

①「国際交流に係る留学生招致について」

☆視察・研修　理由

各国留学生が日本語を習う状況と現場を視察して、国際交流の現状を研修した。

☆研修内容

①東京都・新宿区、新宿日本語学校　540名が勉学

新宿日本語学校では、現在（2015.7）540名の学生が勉学中です。

江副隆秀校長によると、2015年9月13日で設立40周年を迎え、世界40カ国以上の国々から受け入れており、日本語マスターへの独自の教材を多数開発・出版し、各種のニーズに対応している現状について詳しく説明しました。

海外留学のメリットが減少していると言われますが、日本の首都・東京で学びたいという多くの留学生希望にかなう所がこの学校の魅力でもあると説明しました。

学校説明では、19875年に設立し、提供するコースは、外国人向けの日本語クラスとともに、日本語教師養成科もあり、国内では数少ない学校法人格の日本語学校が当学校と説明。

特に特徴的なのは、日本語の助詞の使い方を図や記号などで説明して注目を集めていることでした。、

ろう教育にも力を入れており、全国の学校交流も行われているとのことです。

「外国人」も「ろう児童」も、日本語を聞く量が決定的に少ない共通点があります。それらを解決する方法として開発されたのが、今回の方法、教材です。

施設見学では、３ヶ所ある施設の中で実習棟について見学しました。教室は少し狭いのではないかと感じましたが、学生たちの学習、聞く表情からは、先生との関係は良好と感じました。

☆今後に活かす課題と感想、学んだこと

大変参考になった点は、日本語は世界的には、難しく、理解しにくい、言語として有名ですが、図やこの方法を使って学習すれば、簡単に理解が広がるのではないかと思いました。

全国の自治体、江津でも毎年のように留学生を受け入れていますが、意志疎通に一役できるのではないかと強く思いました。

「テーマ」

②「公共施設再編の取り組みについて」

☆視察・研修　理由

江津市の公共施設再編に向けての課題解決の為に他市の現状視察を行った。

☆研修内容

②茨城県龍ヶ崎市・公共施設再編の取り組みについての視察では、基本方針の策定には専門知識や経験を有するコンサルに委託せず、職員のマンパワーにより作成、マンガの作成も市販のソフトを活用して作成したと強調されました。対象とした施設数は 83 施設で、今後は有識者会議によって基本的な考え方を提言してもらうとしています。特に参考になった点は、住民への周知と理解しやすいようにマンガで周知したら、ホームページの閲覧数が約３０００件と過去最高となったと説明されました。

今後、江津市でも公共施設の維持管理経費等のコストを算定し、受益者負担や施設使用料などについて検証する為に、使用料等改定委員会など設置も必要と感じました。

☆今後に活かす課題と感想、学んだこと。

今後、江津市でも公共施設再編が問題となって来ます。

施設維持管理経費などのコストと施設使用料といった受益者負担が検証されますが、その際には、単純に「利用者が少ないから廃止」「コストがかかるから使用料値上げ」とするのではなく、そもそも、その施設の目的を果たす為にはどうするのか、使用料を軽減して利用者を増やすといった議論もあるべきではないかと強く感じました。

「テーマ」

③「土曜塾の取り組みについて」

☆視察・研修　理由

子供たちが様々な価値観や体験に触れ、校区を超えた子どもや親・地域住民との交わりで学習意欲が向上している大和高田市の現状視察を行った。

☆研修内容

③大和高田市・土曜塾（サタデースクール）の取り組み視察では、放課後子供教室を活用した土曜日の多様なプログラム実践例で、市からの財政支援は年間 51 万円とのことで、小さな財政で大きな成果を出しています。

主な概要は、公民館を中心に土・日曜日の子供の居場所づくりを実施。その中で、学習支援、自然体験、伝統文化、地域の行事への参加等の多様な取り組みを実施。

参加する子供（5 歳～18 歳まで）は市内全域に広がり、保護者同士の交流する場にも発展。地域の祭りに参加することで、積極的に地域の活性化に貢献していると説明されました。

具体的には、漢字検定対策、陶芸教室、桜華殿前絵画教室、イチゴ狩り、もちつき大会、

高田おかげ祭り等が主なものです。
　総括として、校区を超えた子供・親・地域の人々と関わりにより、様々な価値観に触れ、子供たちの学習に対する意欲が上昇したと述べられました。

☆今後に活かす課題と感想、学んだこと。
　江津市でも可能な内容と取り組みと感じましたが、特に校区を超えて取り組むには、調整役（教育委員会）の役割が特に重要ではないかと思いました。

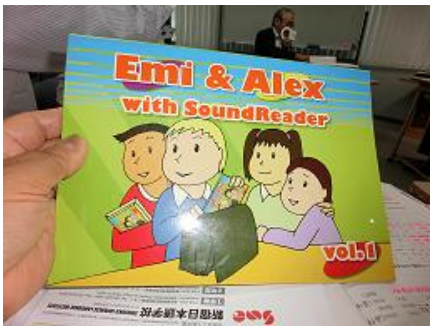
日　時　2015.10.21（水）～23日（金）
場　所　①東京都新宿　②茨城県龍ヶ崎市　③奈良県大和高田市
対応者　①江副隆秀校長　　副校長　　教師
　　②茨城県龍ヶ崎市議会副議長　　各課部門
　　③奈良県大和高田市　　沢田委員長他　各課部門

総 務 文 教 委 員 会 行 政 視 察 報 告

平成 27 年 11 月 11 日
石 橋　孝 義

新宿日本人学校（10 月 21 日・水曜日）
視察：国際交流に係わる留学生招致について

1. 十分な詳細な情報もなく、今後何か江津市とって有効なもの（交流を含め）はないか？手探りの視察訪問となった。
2. 江副校長先生の今迄長年にわたる外国人への日本語教育に対する熱意に触れることができた。
3. ３階建ての校舎で、東南アジア・中近東・ヨーロッパ圏の学生が、狭い教室で語学の勉強に励んでいた。
4. 机もなく椅子だけで、１クラス２０～２５人ぐらい、先生と扇形に向き合い真剣に学んでいた。
5. これらの学生は自費で学んだり、企業で日本の技術取得のためのツールとして日本語を学び日本での就職に役立てたり、自国の企業やサービス業等での就職の優先度を高めたりとハングリーに学んでいた。
6. 江津市と学生の交流が持てたら良いと感じた。
7. 江副式学習法は、日本での初等文法教育に取り入れたら、効果があると感じた。



竜ケ崎市役所（10 月 22 日・木曜日）
視察：公共施設再編成の取り組みについて

○ 事業の概要と取り組み状況
（1）基本方針の策定
・専門知識や経験を有するコンサルに委託せず、職員のマンパワーにより作成した
→　石橋高評価
・漫画の作成も市販のソフトを活用し、直営で作成した。→　石橋高評価
・対象とした施設数　　基本方針対象　８３施設
（本市が保有する公共施設のうち、延べ床面積が概ね１００㎡以上の公共施設）

（2）有識者による公共施設再編に対する提言

・平成２５年度竜ケ崎市公共施設再編成の行動計画策定にかかる有識者会議を発足

→８人の各有識者で編成

◎　事業実施に至る経緯

（1）ファッシリティマネジメントの推進（平成１４年度～）

・維持管理の適正化（平成１９年度）

・計画的な改修、長寿命化 → 公共施設の適正管理に関する規則を制定（平成２０年度）

・公共施設マネジメントを導入した平成１４（2002）年度から１０年間で、委託料の見直しにより約８億円を削減、業務委託費の約３０％（基準年度比）を削減、毎年継続的に行っている。

（2）条例で「公共施設再編成」を義務付け。

（3）事業の体制と市等の役割の位置づけ

※ 図形化して分かり易く解説

◎ トライアル事業の取り組み（個別施設の見直し）

（1）１０施設５事業のトライアル事業

（2）新しいカタチの創造

・公共施設の既成概念にとらわれず、公共施設の機能・在り様についてこの「新しいカタチ」を作るため、市民の理解と協力が必要である。

〈 感　想 〉

① 自ら職員のマンパワーで基本方針を策定した。

② マネジメントの推進は（平成 14 年度～）より策定し、早急にやるべきものは早々に取り組み実績を上げている

↓

危機感　→　スピード感に → 実績を上げている

③ 江津市もコンサル任せにせず、スピード感を持って、すぐに取り組むべきもの、危機感を持って取り組むことが肝心である

大和高田市役所（10 月 23 日・金曜日）

視察：大和高田市土曜塾について

◎ 土曜塾発足のきっかけ

① 平成 20 年度〈学校支援地域本部事業〉の中から生まれたもの

② 少子高齢化に伴う核家族時代は大家族時代に得ることができた様々な生きた体験の機会が失われる傾向にある

↓

子どもたちの生きる力や規範意識の低下につながることから、地域で子どもを育てる環境づくりが必要になった。

↓

○ 大和高田市は、

（1）世代間交流を通した大人たちも子供たちの学びを受け止める。

（2）意欲的に生涯学習に取り組むことを取り組む。

（3）地域の人たちの意識・知恵を提供すること。

（4）子供たちの自主生・創造性・社会性や規範意識を育む。

（5）学校・家庭・地域が一体となり、子どもたちの健全育成（教育力）と社会教育力（地域力）の向上と発展の取り組みが必要

☆ 発足のきっかけを分析し、

● 土曜塾が目指す子ども像

（1）心豊かな子

（2）意欲的に学ぶ子

（3）挨拶をする子　　に絞る

● 活動目標を

①地域でもすごい子！　②活躍できる子！　③居場所のある子！

↓

㋐地域に生きる誇りと実践力を持つ子ども

㋑思いやりがあり、自他ともに尊重し合える子ども

㋒感謝の気持ちを忘れずに、活動できる子ども　　の育成へ

土 曜 塾 の 活 動

1. 学習を支援する活動
2. 自然に親しむ活動
3. 伝統文化に親しむ活動
4. 土曜塾行事（おかげ祭り参加、バス旅行、うだふれあいフェスタ、クリスマス会、餅つき大会）
5. 学校・地域パートナーシップ事業成果報告会参加

〈 感　想 〉

・ 年間予算 30～40 万円と少額で、まさに真の地域の人たちのボランティアで成り立っている。保険代のみ 20 円徴収。
・ 実行委員会・パートナーシップ事業コーディネーター会議で本音で話し合っている。
・ 担当主事の熱意行動が人々を揺り動かしている感じがした。

〈総　括〉

○　どの市も危機感を持って、今しっかり行動し活動している。
○　熱意をすごく感じる。
○　スピード感を持って、やれるところからすぐ取り組み、結果に結びつけている。
○　江津市も大いに参考にすべきと感じた。

以上報告とします。

総務文教委員会行政視察報告

委員　藤田　厚

下記日程にて行政視察を行いましたので報告いたします。

☆日程　　平成２７年 １０月２１日（水）～ １０月２３日（金）

☆視察先　①東京都新宿②茨城県龍ヶ崎市③奈良県大和高田市

★主な目的

新宿日本語学校では国際交流に係る留学生誘致出来ないか、表敬訪問を目的に、龍ヶ崎市では先進地である公共施設再編について、また、大和高田市では、今後、江津市で取組もうとしている土曜塾の視察を行い今後の議会活動に活かす。

１．　新宿日本語学校

【内　容】

開校４０年を迎えられた日本語学校で、東日本大震災後は一時期、１５０名程度となったが、現在では５００名以上に回復し世界各国（台湾、中国、ベトナム、香港等）の生徒が在校している。

今回、田中利徳議員の縁で本校を訪れ、将来的に留学生の誘致に繋がればと思い表敬訪問を兼ねて視察を行った。江津市にも、独自の教育方法で世界的に有名な幼児教育事業所「七田チャイルドアカデミー」があるが、この日本語学校も独自の教育方法、理論を確立され、IT を活用されドコモと独自のシステム開発され、また、教材にも工夫をいれて取組まれておられ、競争の激しい東京都市部で、長年培った教育方法のノウハウを江副校長先生自らが熱弁され、本当に時間を忘れるほどであった。

校長先生に是非ともお越しいただきたい旨のお願いをしておきました。

●まとめ

江津市へ、一度お越しいただき教職員への講演会等を考えてみる必要があるのではと感じる。

２．　龍ヶ崎市

【内　容】

茨城県でも一番早く（平成１４年）から、公共施設再編に取り組んいる自治体で、１０年間で約８億円（３０％）の業務委託費の削減がなされた。総合管理計画や行動計画の策定は外注せず職員のマンパワーで行っており、この中でもマンガ版の基本方針の作成も市販のソフトを活用して、職員の自前で作成し興味を引く良いものとなっており、ネット上のアクセス数も多く、読んでもらえる資料として優れていた。市民アンケートを実施され、再編の考え方にはほぼ賛成があった。しかし個別の施設統合の是非についてはこれからであり、総論賛成各論反対の様相が懸念されこれからが正念場という説明でありました。このように早くから取り組まれ、人口減少もわずかで、合併もしていなく再編対象施設は少ないにもかかわらず対応には苦慮されていることが伺える。

●まとめ

江津市の場合、財政的にも厳しく、また、少子高齢化進み取り組み時期からも再編取り組みははるかに厳しくなると考える。

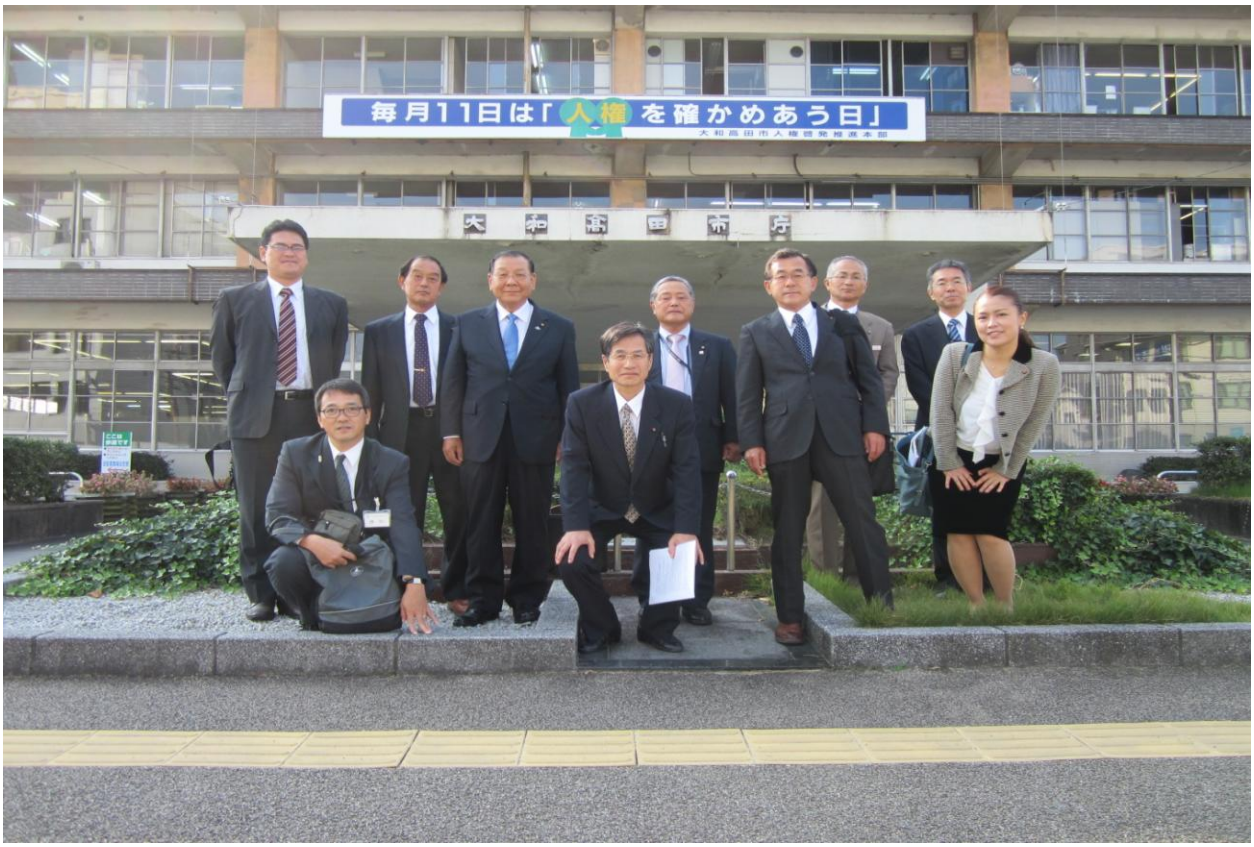
３．　大和高田市

【内　容】

土曜塾は、「放課後子ども教室」を活用した土曜日の多様なプログラムの実践であり、市からの財政支援は、年間３０～４０万円のわずかな予算で年間５０回、公民館を中心に子どもの居場所づくりに重心を置き、学習支援・自然体験・伝統文化の継承・地域行事への参加など多様な取り組みを実施。参加する子どもは市内全域に広がり、保護者の交流につながって、地域のまつりなどへ参加することで活性化にも貢献している。これらは無償ボランティアによるところが大きい。説明はＢＧＭ付きで説明され、はじめてであった。

●まとめ

事業的には高齢者との交流や自然体験や絵画教室・書道教室が主で江津市の課題である学力向上の取り組みはあまりない様に感じた。江津市で土曜塾を広めるのであれば、ふるさと学習もさることだが、学力向上への取り組みも考える余地があるように感じる。


毎月11日は「人権を確かめあう日」
大和高田市人権啓発推進本部
大和高田市役所

総務文教委員会行政視察報告

土井　正人

◆１０月２１日　新宿日本語学校

同校は、外国から日本に来ている人々に日本語を教える場として、４０年以上の年月をかけて多くのそういった方々の日本での活躍を手助けしてこられた。

その実績により、日本語の教え方、伝え方のノウハウが見事なまでに成りたっている様子をユーモアを交えて語られる園長に魅せられた。

このようなやり方で日本人に外国語を教えたのなら、どんなに早く身に付き実用されるだろうと、そして江津の小中学校の教師の講師として招き、指導がなされるなら、子供たちが英語を含め外国語に、より深く慣れ親しむ事ができるであろうと実感した。

是非それを実現したいと思う。

◆１０月２２日　龍ヶ崎市公共施設再編の取り組みについて

◎平成２５年龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画策定に係る有識者会議の発足

そこに至るまでの１０年間において「ファシリティマネジメントの推進」（平成１４年～）

◎維持管理の適正化（経費の削減）→公共施設建築保全業務積算要綱を制定（平成１９年）

◎計画的改修・長寿命化→公共施設の適正管理に関する規則を制定（平成 20 年）

◎公共施設マネジメントを導入した平成１４年から１０年間で委託料の見直しにより、約８億円を削減し、業務委託費の約３０％を削減した。

この取り組みは毎年継続的に実施されている。
そうした実績を基に基本方針の策定を行なう。

◎策定を行なうにあたってコンサルに委託せず、職員のマンパワーにより作成

◎資料としてのマンガの作成も市販のソフトを活用し、市民への PR 誌として作成された。

◎対象とした施設の数は、延床面積が概ね１００㎡以上の８３施設とした。

◎有識者会議において、基本的な考え方を基に実務者としての体験した意見が反映され、提言が実践的なものになり、平成２６年度から専任組織である資産管理課を発足させ現在に至っている。

以上のように時間をかけて再編への道筋が出来てきて、これからが実践の時になるようです。
龍ヶ崎市の取り組みについて、資料作りからして安易にコンサルに依頼するのではなく、職員自らが作成しており、判らない事は研修に出て学び、実践した事に意義があるのではないか。
これこそが無駄な経費の削減となり、職員意識の向上となり、市民への説明にも説得力が出るものと感じた。本市においても職員の意識向上を切に願うものです。

◆１０月２３日　大和高田市土曜塾について

大和高田市のサタデースクールは、本市の目指しているものとは違いがあり、いわゆる地域密着型となっている。

〇地域に生きる誇りと実践力を持つ子ども

〇思いやりがあり、自他共に尊重し合える子供

〇感謝の気持ちを忘れずに活動出来る子ども

等の目標を掲げ実践されていた。

組織としてコーディネーター、活動推進員、活動サポーターボランティアとして約 100 名近い人がかかわり、更には地域住民の協力も得ながら進められている。

年齢は５～１８才までを対象としており、年間５０回以上、参加人数も1,000 人を超すもので、毎回の企画立案が大変だろうなと感じた。

内容が多岐に亘っており、かかわる人の苦労はどうなのか、そのあたりの話がもう少し聞けたら、と思った。

今回も教育委会から２名の方が同行されたが、今一つ消化不良ではなかったかなと心配している。

行政視察においては、内容も大切であるが、背景も考慮し（例：人口、面積、財政規模、更には近隣との関係、合併の状況などなど）本市においてどう対処出来るかを考える必要があると感じた。

平成２７年度　総務文教委員会行政視察報告書

江津市議会総務文教委員会・副委員長　　田 中 利 徳

【 日 程 】 平成２７年１０月２１日(水)～１０月２３日（金）

【 視察先 】１、新宿日本語学校

「国際交流に係る留学生招致について」

２、茨城県龍ケ崎市

「公共施設再編成の取り組みについて」

３、奈良県大和高田市

「大和高田市の土曜塾の取り組みについて」

【視察のねらい】

１、 新宿日本語学校

東京新宿区高田馬場に位置する新宿日本語学校は、外国人向けの日本語クラスとともに、日本語教師養成科などのクラスを提供し、文科省準備教育課程もある国内では数少ない学校法人格を有する日本語学校の一つである。現在外国人が約500名が在籍している。

この学校とは、田中副委員長が以前から交流があり、留学生の「日本の田舎体験」の研修場所として本市を推挙した経緯もあり、このたび総務文教委員会で表敬訪問することとなった。

２、 茨城県龍ケ崎市

全国の市区町村が維持費等の増大等の課題として抱える「公共施設の再編成への取り組み」は江津市にとっても、喫緊の課題である。国も方針を打ち出し、江津市においても、取り組みを進めているところであるが、市執行部と議会がリーダーシップを取り市民とともに、早急に取り組まなければならない。そこで、この度は「公

共施設の再編成への取り組み」を具体的な行動計画を作り積極的に推進している龍ケ崎市を視察することとした。

3、 奈良県大和高田市

2002年4月6日から公立小中学校及び高等学校が毎週土曜日が休業日となり完全な週5日制となって久しい。この間、学力の低下問題等を受けて土曜日の授業復活の流れもあるが、いまだにこの制度は変更されることはない。

現在全国の市区町村では、児童生徒の学力・人間力を育むために、土曜日を指導日に当てて試行錯誤を繰り返しながら取り組みを推進している。江津市においてもこれまで一部の小学校において、復習を中心とした学習指導を行う場として、地域コミュニティなどにおいて「サタデースクール」を実施してきたが、今年度より市教育委員会が主管として市内全域での取り組みを始めている。

この度は、「土曜塾」として積極的に事業を展開している奈良県大和高田市を視察することとした。

なお、この視察には江津市教育委員会においてこの事業の担当である佐貫、河野両氏に同行をお願いすることとした。

【視察報告】

1、 新宿日本語学校 （東京都新宿区高田馬場）

「国際交流に係る留学生招致について」

山手線高田馬場駅から約10分で到着、依頼していた森副校長はミャンマーへの出張のため不在であったが、江副隆秀校長自らが校内案内や学校の概要・取り組みについて説明をされるなど大歓迎を受けた。

国人に日本語を教えるために、日本語の品詞等を色別して語順を並び替える方法をタブレット等のIT を駆使しての指導方法を校長自ら楽しそうに説明され委員一同聞き入るほどであった。現在は、全国のろう学校で導入の動きがあるが、本市においては、小学校低学年の国語指導に取り入れると大きな効果があると強く感じた。

今後は早い時期に、校長副校長が来江されることと留学生との交流を依頼して訪問を終えた。

２、茨城県龍ケ崎市

「公共施設再編成の取り組みについて」

佐貫駅西口から市内８ルートを巡回するコミュニティバスで市内見学を兼ね市内を巡回し龍ケ崎市役所に到着し、５階第２委員会室で協議をした。龍ケ崎市議会副議長の山宮様の歓迎の挨拶の後、「公共施設再編の取り組みについて」担当課職員の説明を聞いた。

説明によると、平成２５年２月に「龍ヶ崎市公共施設再編成の基本方針」を策定し、職員が市販のソフトを活用し作成した漫画による広報を行い、市民への周知徹底を行った。

そして、平成２６年９月に、基本方針に基づく「第１期行動計画（平成２６年度～平成２８年度)」を策定し、現在基本方針対象施設８３施設のうちからピックアップした施設について計画を実施している。

説明後の質疑応答では、この「基本方針」、「行動計画」の作成はどのようになされたかの問に対して、専門知識や経験を有するコンサルに委託せず職員のマンパワーにより作成したとの答えがあった。この作成に当たった２名の職員によると、以前仕えた上司が財政畑を中心に勤務されており、「この公共施設再編成を成功させなければ龍ケ崎市の財政は必ず困難に陥る」と指導を受けていたことから、担当職員になり意欲的に取り組むことができたと話しておられたのが印象的だった。全国的な傾向とは言え、安易にコンサルに任せることが多いが、職員が苦労し力をつけることによって、市民に対する説明等も初めて血の通うことになると強く感じた。

２、 奈良県大和高田市

「大和高田市土曜塾の取り組みについて」

宿泊先の大阪鶴橋から近鉄大阪線で大和高田市に行き、大和高田市役所４階委員会室において、市議会議員沢田様の歓迎の挨拶の後協議をした。

土曜塾発足のきっかけは、平成２０年度に、市内の学校で実施した「学校支援地域本部事業」であった。導入の背景としては、近年、都市化、核家族化、個人主義の浸透、地域における地縁的なつながりの希薄化に伴い、家族や地域のきずなが弱まってきた。このことは、子どもたちにとって、地域住民との交流することによる様々な経験をする機会を減少させ、その経験から学んでいた「社会性」や「信頼関係」を作り上げていくことが難しくなっている。また、少子高齢化、高度情報化、国際化等社会情勢の著しい変化の中で、次世代を担う子どもたちの育成には、家庭や地域で人と触れ合い、様々経験を通して豊かな人間性を養うことが重要である。

このような背景から大和高田市では、「地域ふれあい活動体験事業実行委員会（１

１名)」を設置し、土曜・日曜に「放課後子ども教室事業」を推進している。

多数のボランティアにより、「学習支援」「自然に親しむ」「伝統文化に親しむ」「土曜塾行事」等の事業を、平成２６年度には年間４７回実施している。

活動の成果としては、参加者同士のつながりが生まれ、保護者同士のコミュニケーションも活発になってきた。子どもたちが成長していくにつれて、受講生が育ち、多くの子どもを巻き込み好循環が生まれてきている。ボランティア側ではやりがい生きがいを感じて、事業のモティベーションが保たれている等々成果が顕著に表れてきている。

江津市では、時を同じくして、高角小学校で「学校支援地域本部事業」が展開され、「サタデースクール」として、教科の復習を中心とした学習指導を展開してきた経緯がある。

今年度は、この「サタデースクール」を江津市内全域を対象に拡充を図っているところであるが、指導者の確保やスポーツ少年団との関係でやや足踏み状態にある。

今後は、龍ケ崎市の例を参考にして、「学習指導」に自然や伝統文化に親しむ活動等も取り入れて、江津の子どもたちの学力・人間力を育む活動として、市内の子どもたちが参加できる事業にしていかなければならないと強く感じた。

そして、視察終了後新逢坂駅に向かい、新大阪発１４時０９分の「望み２９号」で帰路についた。

平成２７年１１月１３日

総務文教委員会行政視察報告

委員長　藤間　義明

下記日程にて行政視察を行いましたので報告いたします。

☆日程　　平成２７年１０月２１日～１０月２３日

☆表敬訪問先　東京都新宿区　新宿日本語学校

☆視察先　①茨城県竜ケ崎市　竜ケ崎市役所

②奈良県大和高田市　大和高田市役所

☆目的　　表敬訪問・・国際交流に係る留学生招致について・・日本がこれから生きていくうえで、グローバル化が進まざるを得ない状況です。本市においても、そうした流れを促進する為、現地に赴き視察しました。

視察・・①公共施設再編成の取り組みについて・・本市において３０～５０年前公共施設が多く設置されていた時代があり、現在そうした施設が老朽化し、維持費も多くなる中で、今後の取り組みを検討する為視察を行いました。

②土曜塾の取り組みについて・・総務文教委員会は昨年、今年と教育に特に力を入れています。そうした事から教育の取り組みについて先進地視察を行いました。

＊東京都新宿区　新宿日本語学校

動機・・今回、「国際交流に係る留学生招致について」をテーマに、田中利徳議員と親交のある新宿日本語学校に表敬訪問しました。

内容・・新宿日本語学校の江副校長先生にお会いし、校長先生から学校の内容を聞きました。

感想・・校長先生のお話をお聞きし、外国人の生徒さんが早く日本語を習得されるため様々な工夫をされていると思いました。そしてスマートフォンや、最新の機器を教材として活用されていました。また江副方式の教育法も編み出され、日本の最先端の技術を駆使されていました。私自身非常に高度な教育法を学んだと思います。

：

① 茨城県竜ケ崎市　竜ケ崎市役所

動機・・公共施設再編成の取り組みについて、先進的に行っていて、市の規模が本市に出来るだけ近い市として、茨城県竜ケ崎市を選びました。

内容・・竜ケ崎市役所にお邪魔し、担当者の方から説明を受けました。基本方針として、（１）総量の削減、（２）既存施設の有効利用、（３）効果的、効率的な管理運営を掲げておられます。

感想・・（イ）基本方針の策定は専門知識や経験を有するコンサルに委託せず、職員のマンパワーにより作成されていましたので職員自身が内容を熟知していると思いました。

（ロ）公共施設再編成の取り組みを職員自身作成したマンガで分かりやすく市民に説明していると思いました。

（ハ）本市の施設より全体に２０年近く新しいのに、早くから再編成の取り組みを行い、市民への周知を十分に行っていると思いました。

②奈良県大和高田市　大和高田市役所

動機・・本市において本年１０月末の土曜日からスタートした土曜塾を、以前から進められ、土曜塾の取り組みで文部科学大臣表彰を受けた当市を選びました。

内容・・大和高田市役所へお邪魔し、担当者の方から説明を受けました。活動として、（イ）学習を支援する、（ロ）自然に親しむ、（ハ）伝統文化に親しむ、（二）土曜塾行事、（ホ）学校・地域パートナシップ事業があり、」年間約１，０００回されていました。

感想・・（イ）近年核家族化で子供の地域交流が希薄化する中で、この活動は人と触れ合い、様々な経験を通して人間性を養う大変意味あることと思います。

（ロ）大変多くの活動にも関わらず、経費は年間３０万円足らずと携わっている方たちのボランティア精神に驚きました。

（ハ）担当されている市の職員の熱心さは驚くべきものでした。

② まとめ

今回の行政視察三か所は、それぞれ特徴ある視察であり、いずれも本市にとって大変参考になりました。今後はこうした視察を本市においていかに生かすか、出来ることから行っていきたいと思います。